

あなただけにできること

—動物の繁殖制限—





🐾 どうして繁殖制限が必要なのでしょう？

一般に飼われる動物のほとんどは、たくさん子どもを産みます。自由に繁殖できる状況では、あっという間に数が増えてしまいます。しかし、動物を飼う空間や、世話をする人手や時間、経済的条件は限られています。次々と生まれる動物をすべて飼うのも、責任ある新しい飼い主を探すのにも限界があります。きちんと世話できる数以上の動物をかかえてしまうと、掃除が行き届かなかったり、一匹一匹に気を配れなくて健康を害してしまうなど、動物を苦しめるばかりでなく、臭いや騒音で近所の人たちにも大きな迷惑をかけてしまいます。

また、現在、年間約 **40** 万頭の犬や猫が、飼う人がいないという理由で殺処分されています。その多くは、子犬や子ネコです。数が多すぎるという理由で、寿命を全うせずに死んでいく動物の問題を解決するためにも、繁殖制限は必要なのです。

🐾 不妊・去勢手術はかわいそう？

かわいそうだから、不妊・去勢手術はしないという声をききます。確かに、健康な体にメスを入れることには抵抗があるかもしれません。しかし、動物は本能で繁殖を行います。不妊・去勢手術も行わないが、繁殖もさせないというのは動物にとって大きなストレスとなります。不妊・去勢手術は、一回の処置で一生、望まない命を生み出さない、とても効果的な繁殖制限措置であるだけでなく、性ホルモンの影響や繁殖に関するストレスをなくすため、健康面や行動面にも様々なメリットがあります。

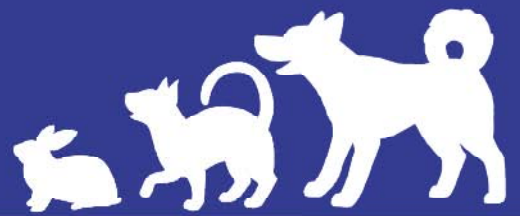
🐾 健康面でのメリット

動物の病気やケガには、繁殖行動や性ホルモンに関係しているものが多くあります。不妊・去勢手術により、多くの病気が軽減され、より健康に長生きすることができます。

メスでは、不妊手術により、発情・妊娠・出産による肉体的負担や、交尾でうつる病気、生殖器の病気、性ホルモンの影響による病気のリスクがなくなります。

オスでは、性ホルモンは攻撃性や支配性、縄張り意識、活動性を高めるので、去勢手術により、精巣の病気や交尾でうつる病気、性ホルモンの影響による病気のリスクがなくなるだけでなく、なわばりやメスをめぐるケンカでケガを負ったり、交通事故など思わぬ事故に遭うことが少なくなります。





行動面でのメリット

不妊・去勢手術をした動物は、一般に、落ち着いたおだやかな性格になります。特にオスでは、ほかのオスや人に対する攻撃やなわばりのにおいつけが少なくなり、飼いやすくなります。

デメリット

不妊・去勢手術をすると、必要なカロリーが少なくなります。手術前と同じ食餌量・運動量だと太ってしまうので、適切な量に管理することが必要です。

いつ、手術したらいいでしょう

繁殖させる予定がないのであれば、最初の発情の前（性成熟の前）に不妊・去勢手術を行えば、一生涯、繁殖に関するストレスから解放し、安定した生活をおくらせることができます。何才でも手術は可能です。

安易な繁殖の先には・・・

かわいい動物の子どもを見てみたいというのは自然な感情です。しかし、健康な子どもを誕生させ、生まれた子どもすべてに責任をもつのは簡単ではありません。

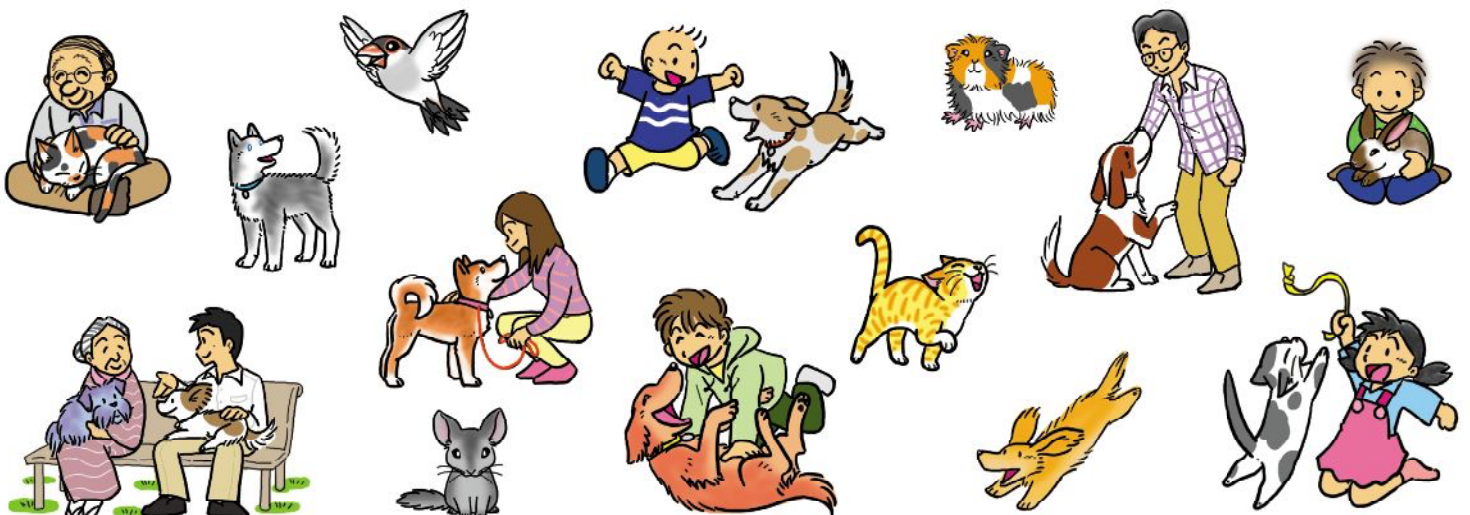
飼っている動物を無制限に繁殖させるのは、決して「自然な状態」などではなく、過密な環境や不十分な世話で、動物を苦しめることにつながります。

また、純血種の中には、遺伝病が発現しやすく、繁殖には系統や健康状態を慎重に見極めなくてはならないものも多くあります。生まれながらに病気の苦しみを背負う動物をわざわざ作りださないのも、人の責任ではないでしょうか。

生まれてしまってから、こんなはずじゃなかったとあわてても遅いのです。

動物は自分で繁殖をコントロールすることはできません。

彼らの幸せのために実行できるのは、飼い主のあなただけなのです。



犬のばあい



メス犬は、生後 **1** 年くらいで子犬を産めるようになり、年 **2** 回ほど発情します。一回の出産で **1** ～ **10** 匹ほどの子犬を産みますから、発情のたびに妊娠していたら、とても飼いきれません。



妊娠・出産の繰り返しは、母犬の体に大きな負担となり、病気や寿命を縮める原因になります。また、発情期には攻撃的になったり防衛本能が増して、問題行動を起こすことがあります。



不妊手術をすることで、望まない子犬が生まれただけでなく、子宮蓄膿症や乳腺腫瘍などの病気の予防にもなります。

また、周期的な性格の変化がなくなり、安定して飼いやすくなります。



オス犬には決まった発情期はありません。

いわば、一生いつでも発情中。メス犬のにおいがすれば、いてもたってもいられません。

オス犬の性ホルモンは、攻撃性や支配性、なわばり意識を高めます。

オス犬は、常に繁殖に関するストレスにさらされています。



去勢手術をすることで、性ホルモンの影響やこれらのストレスから解放され、おちついたおだやかな犬になります。マーキングや吠え声、ほかの犬とのケンカや脱走などの困った行動も少なくなります。また、前立腺肥大や肛門周囲腺腫瘍、会陰ヘルニアなどの病気の予防にもなります。

性的に成熟する前に去勢すれば、性ホルモンの影響されないまま、繁殖に関するストレスなく一生を過ごすことができます。



ネコのばあい



ネコの繁殖期は初春から晩秋。この間にメスネコは、発情・妊娠・出産を年に**2～3回**繰り返します。交尾の刺激で排卵するので、交尾すればほぼ**100%**妊娠し、一回の出産で**1～8匹**ほどの子ネコを産みます。

生まれた子ネコは生後**8ヶ月**くらいで、子ネコを産めるようになります。毎年、妊娠・出産していたら、**1匹**のメスネコがあっという間に、何**10匹**にも増えてしまいます。



発情すると大きな声で鳴き、オスネコを求めて外に出たがります。閉じ込めて交尾させないのは、大きなストレスになってしまいます。

また、妊娠・出産の繰り返しは、母ネコの体に大きな負担を与え、病気や寿命を縮める原因になります。

不妊手術をすることで、望まない子ネコが生まれただけでなく、一生、繁殖に関するストレスから解放され、おだやかに過ごすことができます。妊娠・出産の負担がなくなり、生殖器の病気や交尾でうつるネコ白血病などの病気の心配もなくなります。



オスネコは生後**8ヶ月**くらいでオトナになり、独特の声で鳴き、クサいにおいのオシッコをあちこちにひっかけるようになります。



メスネコやなわばりを求めて外に出たオスネコは、様々な危険にさらされます。



他のオスネコとのケンカ



交通事故



交尾やケンカでうつる病気

こうしたことにより、天寿をまっとうせず死んでしまうオスネコも少なくありません。去勢手術をすることで、オシッコのにおいが軽減し、オシッコをあちこちにひっかけることもほとんどなくなるので、家の中で一緒に快適に暮らすことができます。



外に出たりほかのオスネコとケンカする衝動も少なくなり、事故やケンカでうつるネコエイズ（ネコ免疫不全症候群）などの感染症の危険も少なくなります。繁殖のストレスから解放されて、いつもおだやかにくらすことができます。

ウサギのばあい



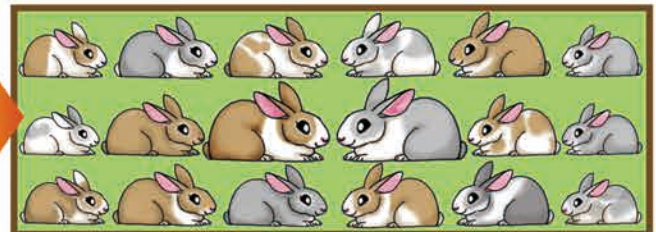
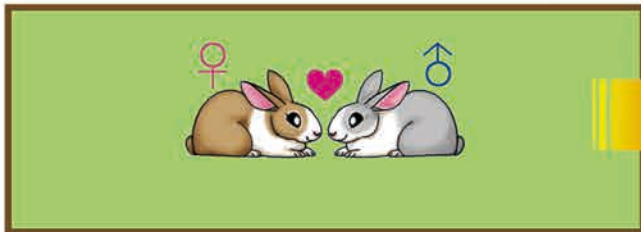
野生のウサギ（アナウサギ）は、いつも捕食者に狙われています。ですから、たくさん子どもを産んでどんどん増えるようになっていきます。



ウサギには決まった繁殖期はなく、一年中いつでも交尾・出産できます。妊娠期間はわずか**1ヶ月**。しかも、出産した日に交尾して、続けて繁殖できますから、最大で年**6回**出産できます。

1回の出産で**1～8匹**ほどの子ウサギを産み、生まれた子ウサギは、生後**4ヶ月**くらいで子ウサギを産めるようになります。

オスとメスのウサギをいっしょにしておくと、あっという間にどんどん数が増えてしまいます。



過密な環境は、ケンカや病気を誘発し、ウサギに大きなストレスを与えます。また、妊娠・出産の繰り返しは、母ウサギの体に大きな負担になります。



生まれたての子ウサギは、赤はだかで目も開いていません。母ウサギは一日に**1～2回**、乳をやりに巣に戻るだけで、あとは放りっぱなしです。

過密な環境に生まれた子ウサギは、ほかのオトナのウサギに巣をけちらかされ、踏まれ・・・短い一生を終えることになります。

それでもウサギは本能に従って、交尾し、子ウサギを産み続けます。

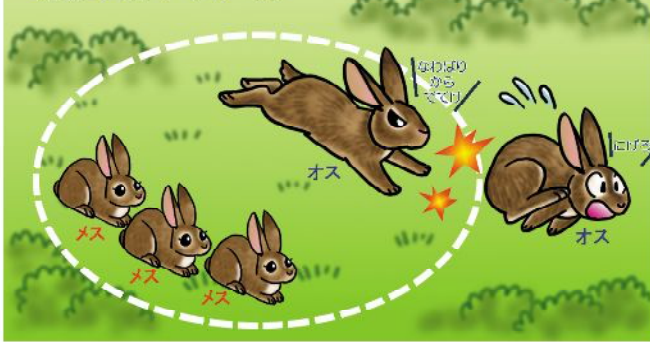
限られた空間に閉じ込めて、無制限に繁殖させることは、決してウサギにとって、よい状態ではありません。





野生ではオスウサギはなわばりを持ち、侵入してきたほかのオスウサギを追いかけています。負けたオスウサギはなわばりから逃げ出します。

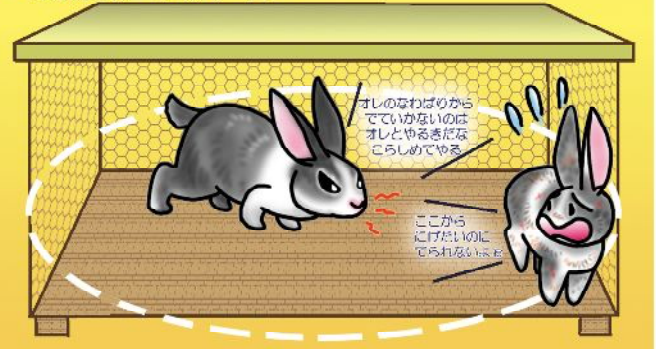
<野生のアナウサギ>



強いオスウサギは、本能に従ってほかのオスウサギを攻撃してなわばりから追い出そうとします。

しかし、ケージなどで飼われていると、負けたオスウサギは逃げ出すことができません。

<飼育小屋のウサギ>



弱いオスウサギは逃げ出すこともできず、攻撃を受け続け、大ケガを負い、えさも食べられずに死んでしまうことも少なくありません。



ウサギを無計画に増やさないために、オスとメスは別々に飼うことが必要です。また、メスウサギは相性がよければ、ひとつのケージなどで複数飼うことも可能ですが、オスウサギを複数飼うことはさけましょう。

◎最適な飼い方 <オスもメスも一匹ずつ>



○場合により可能な飼い方 <相性のよいメス複数>



× 不適切な飼い方

<オスメス同居> <オス複数> <相性の悪いメス複数>



オスウサギは、発情すると気が荒くなったり、オシッコをあちこちにひっかけたりすることがあります。去勢手術をすることでこれらの困った行動がなくなり、とても飼いやすくなります。メスウサギは、不妊手術をすることで、子宮蓄膿症、子宮腺癌を予防できます。

オスもメスも不妊・去勢手術をすることで、繁殖に関するストレスなく、一生をおだやかに過ごすことができます。

ウサギのオスとメスの見分け方

- ・ オスの生殖器は丸い
- ・ メスの生殖器は縦に長い
- ・ 肛門と生殖器の距離が、オスは長く、メスは短い



関係法令

動物の愛護及び管理に関する法律（昭和 48 年法律第 105 号）（抜粋）

（犬及びねこの繁殖制限）

第 37 条 犬又はねこの所有者は、これらの動物がみだりに繁殖してこれに適正な飼養を受ける機会を与えることが困難となるようなおそれがあると認める場合には、その繁殖を防止するため、生殖を不能にする手術その他の措置をするように努めなければならない。

家庭動物等の飼養及び保管に関する基準（平成 14 年環境省告示第 37 号）（抜粋）

第 3 共通基準

4 繁殖制限

所有者は、その飼養及び保管する家庭動物等が繁殖し、飼養数が増加しても、適切な飼養環境及び終生飼養の確保又は適切な譲渡が自らの責任において可能である場合を除き、原則としてその家庭動物等について去勢手術、不妊手術、雌雄の分別飼育等その繁殖を制限するための措置を講じること。



発 行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

所在地：〒 100-8975 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2
<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/index.html>
平成 18 年 3 月発行

制作：（社）日本動物保護管理協会
編集・デザイン：つしまみかこ



〇お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

R100

全国環境教育100校を認定しています。